

平成16年7月13日… 刈谷田川の堤防決壊

見附の市名の由来に、
「水漬く」によるという言葉があります。

水漬くとは、水につかるという意味。

幾度となく氾濫を繰り返してきた、

市域を貫いて流れる刈谷田川。

平成16年7月13日も、自然は牙を剥きました。

見附市は記録的な豪雨に見舞われ、

刈谷田川の水位が急上昇。

増水は限界を超えて流域の6ヶ所で堤防が決壊、

甚大な被害をもたらしたのです。



道の駅

パティオにいがた

人々が行き来する交流と防災の拠点

アクセスMAP



車で越しの場合／北陸自動車道 中之島見附IC下車……→ 国道8号……→ 3分
電車でお越しの場合／信越本線 見附駅下車→「て」今町中之島方面行→パティオにいがた下車→14分

防災アーカイブ

新潟県見附市今町1丁目3358番地

TEL0258-94-6211 FAX0258-94-6215

<http://patio-niigata.jp/> パティオにいがた 検索

2004年7・13水害から学び未来へつなぐ、安心な暮らし。

防災アーカイブ



道の駅 パティオにいがた

ごあいさつ

見附市の中心部を流れる刈谷田川は、古くから人々の生活に欠かせない存在でした。刈谷田川からの豊かな恩恵は、生活用水はもちろんのこと、川の水を利用して田畑を耕し、米などの農産物を与えてくれました。また、鉄道や道路交通が発達するまで、栃尾から見附、さらに信濃川を経て新潟港に至る舟運が主要な幹線交通路で、刈谷田川を中心としてまちのにぎわいが形成されていました。

同時に、刈谷田川は県下有数の「暴れ川」でもありました。かつての刈谷田川は大きく蛇行して現在の見附・今町の市街地の中心部を流れていました。この蛇行により、刈谷田川は氾濫を繰り返し、住宅が流されたり田畑が水に浸るなどの大きな被害をもたらしてきました。

その後、刈谷田川は大規模な改修工事を何度も行い、ようやく現在の形になりました。近年では、平成16年の7.13水害の後に、大規模な改修とともに数々の災害対策が施されました。その結果、平成23年7月にも大雨による豪雨災害が発生しましたが、被害は大幅に軽減されました。

この『防災アーカイブ』では、これまで先人が培ってきた「災害から学んだ知恵」を生かし、「平成16年7.13水害」後に講じた対策が、7年後に発生した「平成23年7月新潟・福島豪雨」にどのように生かされ、どんな効果があったかを展示しています。皆様から防災対策の重要性や必要性をご理解いただければ幸いです。

見附市長

稲田 亮

氾濫を繰り返してきた 刈谷田川の歴史と7.13水害

大きく蛇行して見附・今町の中心市街地を流れる刈谷田川は、これまでも幾度となく氾濫を繰り返し、甚大な被害をもたらしてきました。刈谷田川の歴史と、平成16年7月13日の水害の概要を紹介します。

歴史・災害記録 のコーナー

整備・改修 のコーナー

ジオラマ模型

学習スペースとしての利用も可能(最大40席)

スクリーン
100インチ
モニター
55インチ

災害検証と 対策のコーナー

防災事業 MAP

7.13水害に学び 有効な対策を実施

7.13水害の検証と対策。水害を想定した防災訓練や洪水被害を軽減する「田んぼダム」の紹介。また、これらの対策が「平成23年7月新潟・福島豪雨」にどのように活かされたか紹介します。

洪水被害を 軽減させる防災事業

氾濫するたびに改修工事を施してきた刈谷田川。7.13水害の後、大規模な改修とともに「遊水地」や「雨水貯留管」などの防災事業が進められました。その内容を模型等で展示します。

映像を通して知る 防災シアター

見附市が行っている防災対策を映像で紹介します。

水害の記憶を風化させない、
次代に活かすための学び舎。

入口